

4年ぶりに開催します！ 「大空マルシェ」

「大神宮」や「村松山虚空蔵堂」という歴史深いロケーションに、おしゃれなクラフト雑貨や、さまざまな種類のフード・ドリンクが集合します。ほかにも楽しい催しをたくさん用意していますので、ぜひご家族皆さんで足を運んでみませんか。

期日▼10月1日(土)

時間▼午前10時～午後4時30分

場所▼大神宮、村松山虚空蔵堂

その他▼▽来場の際は公共交通機関をご利用いただき、会場周辺の混雑緩和にご協力ください。▽マスクの着用や、手洗い・手指消毒の徹底、体調が優れない場合は来場を控えるなど、感染

症対策へのご協力をお願いします。▽新型コロナウイルス感染症の拡大防止等のため、中止・延期となる場合があります。

問い合わせ▼大空マルシェ実行委員会(東海村観光協会内 ☎287-0855)

大空マルシェの詳細はこちら▶



ふるさと歴史訪 ー自然を探してー

「ムサシアブミ」ー自生・植栽？ー

歴史と未来の交流館副館長(博物館長)

安嶋 隆

「ムサシアブミ(武蔵鏡)」(サトイモ科テンナンショウ属)の名前は、花を逆さまにした様子が、馬の乗り降りに使用される馬具の「鏡」を連想することと、鏡の産地が武蔵国であったことに由来しています。ムサシアブミは、県内の産地が希少であることから、茨城県(「茨城県レッドデータブック」(平成24年)や東海村(「東海村の自然誌Ⅱ」(平成30年)では、絶滅危惧植物に指定されています。

平成26(2014)年から30(2018)年に行われた村の第3期自然調査では、県内で唯一と思われていた豊岡の常緑樹林のほか、船場や舟石川のスギ林内でもムサシアブミが確認でき、村内の生育地が拡大していることが分かりました。またムサシアブミの県内の生育地の記録は、平成17(2005)年頃までは東海村のみでしたが、その後の各種調査報告書によると、水戸市、ひたちなか市のほ



【花を逆さまにした様子】



【ムサシアブミ(舟石川地内)】

か、筑波山など、県内数か所で確認されています。これらの生育地はいずれも人家近くのスギ林や常緑樹林という共通性があります。このことから一部の研究者の間では、「茨城県の産地は自生ではなく、植栽されていたものが「逃げ出した」のかもしれない」と話題になっています。

最新の研究成果をまとめた「日本産テンナンショウ図鑑」(平成30年)には、ムサシアブミの全国的分布について「本種の分布は本州(愛知県・福井県以西)、四国、九州で、最近では関東地方でも各地で逸出している」と記述されています。このように、県内のこれまでの産地は自生あるいは植栽されたものなのか、今後論議を呼びそうです。将来、DNA分析などにより、東海村のムサシアブミの由来が解明されるかも知れません。いずれにしても、村内の植物の生育状況を継続して記録することは、大変重要なことといえます。